



公益社団法人

日本青年会議所直前会頭

麻生 将豊君

公益社団法人

川越青年会議所64代理事長

相原 広明君

# 対談

**相原**：…本日は宜しくお願ひします。早速ですが、以前「朝令暮改」はむしろしたほうが良いとおっしゃっていたことが強く印象に残っています。どのようなお考えか改めてお話しいただけますか？

**麻生**：…こちらこそ宜しくお願ひします。「朝令暮改」については、常にベストを尽くすとその時その時で考えも変わっているはずなので、ゴールさえ間違えなければ手法については様々試行錯誤していったという考え方です。

**相原**：…やり方を途中で変えても最終的にどこに向かっているかさえ間違えなければいいという考え方ですね。

**麻生**：…はい。一番大事な根幹さえズラさなければ構わないと考えています。一年間の基本方針などは自分の中で理事長所信として決めてるじゃないですか。会頭所信もそうですけど、細かく詰めてしまうと、それをやることだけが答えになってしまうんですね。僕の書いた所信はどちらかというと、ゴールはこっちです、手法は君たちで決めなさい、というような内容になっている。

**相原**：…なるほど。それは私の書いた理事長所信も似ているところがあるかと思えます。もう一つその時お話しされた中で心に残っていることとして、JCはもつと地域に必

要とされる団体になっていかないといいないです。ということをおっしゃっていたのですが、そちらについてももう一度伺えますでしょうか。

**麻生**：…JCって何だろうと考えた時に、自分たちがやりたいこと、やっていることは、地域にとって良いことなんだからやり続けるんだ、ということなのであれば、完全にただの自己満足でしかない。でも、本来はそうではなくて、本当の意味で地域から必要とされる団体になっていけば、地域の人たちがJCっていいよねって話もしてくれるだろうし、自らJCに入ろうって思ってくれるはずなんです。

**相原**：…なるほど。地域の人たちが自らJCに入りたいと思ってもらえたらそれは理想的な形ですね。とはいえ、本当の意味で地域に必要なとされる事業ができなかったり、良い事業をやっているもJCがやっていることとしてうまく伝わってないなど、様々な課題があると思うのですが、こちらについてはいかがでしょうか。

**麻生**：…この地域のために必要とされることっていうのをもつと自分たちが本当に考えた上でまず事業構築をしていかなければいけない時代になったのかなって言うのが一つと思います。これだけJCだけではない地域の人たちが当たり前のようにイベントをできるような時代だからこそ、青年会議所特有の何かをやっていく

ということが大事だと思えます。そのうえで、これはJCがやっているんだということを知ってもらえるようにすることがとても大事ですし、我々ももっと広報を真剣に考えてやっていくべき時代が来ていると思います。なのでこの両側面から行かないともう厳しいですよ。

**相原**：実は私も今年、川越青年会議所の組織を作る上で、地域から必要とされたいという思いもあり、所信に入れております、川越青年会議所として初めて、広報拡大特別委員会という委員会を設けました。今まで広報と拡大は別の委員会でしたが本場に良い事業をやって、それをちゃんと届けることができれば必ず感化されて入会してくれる人がいるだろうと

思っていて、手法は様々だと思えますが余すことなく川越青年会議所がやっていることを伝えてもらうことが、一つ拡大の手法として、良いのではないかなと思っています。

**麻生**：広報って多分、素人じゃ難しいことっていっぱいあると思うんですよ。だからこそ代理店さんがいらっしやる。でもお金の都合もあって自分たちでやらないといけない。広報と拡大、すごくチャレンジングなことをやられていると思います。

**相原**：少し拡大の話に入ってますが、これまで様々なLOMを見てきてると思いますが拡大がうまくいってるLOMに共通していることは何かありますでしょうか。

**麻生**：そうですね、うまく拡大出来ているLOMは、OBやシニアと現役の距離が近いところは非常に上手くいってるなと思います。私の所属LOM（飯塚JC）はシニアクラブの代表者委員会が3ヶ月に1回ぐらい行われているのですが、理事長専務、拡大担当の委員長、副理事長と、直近の事業だったりに関わった人がご挨拶に行つて一緒に食事をする会が昔からあるんですよ。先輩と仲良くなると、またさらに近づいていろんな話ができるようになるんですね。そういったことが当



たり前にできているのが鍵かなと思います。先輩たちと一緒にいろいろ話していくと、現役は今何に困っているのかという話になると思うんですよ。

**相原**：OBやシニアの方々にお力を借りているんですね。

**麻生**：どれだけ多くの拡大候補者にアプローチできるかや、入会を判断してもらうためにはもちろん我々現役が一生懸命やるんですが、力を借りるべきところはとことん借りてしまっても良いと思っっています。JCにとってやっぱり大事なことはメンバーの数なんです。なぜかという、数は力だつてもありますが、それだけではなくて僕らってスポーツスマ

ンなんです。簡単な話ですが、青年会議所の話をJCメンバーは確かに居酒屋でにぎやかに喋ったりしながらやっているように見えるかもしれないけど、そうやって広がってくるんですよ。自分がJC楽しいよねとか、JCでこうやっていよねって話を、友達とかに話していると何か楽しそうにしてると興味を持ったりされるんですね。なのでそういったメンバーを1人でも増やすことがまず大事です。

**相原**：そうやってOBの皆さんのお力を借りながら拡大をしていきながら、我々の事を知っていただけるように広報をしていくということですね。本日は大変貴重なお話をありがとうございました。この後の例会の講師もよろしくお願ひいたします。

